

## 審査の結果の要旨

氏名 尹 柱善

本論文は、地域 SNS を活用した高層ニュータウン住宅地の都市計画への市民参加のための特性を明らかにし、新しい形の参加型都市計画の方法を明らかにすることを目的として、ソウル近郊を対象に研究をおこなったものである。

論文は、序章とそれに続く 2 つの部から成っている。第 1 部は高層ニュータウンにおいては人間関係が希薄であるために、従来おこなわれてきた参加型のまちづくりが困難であること、それを克服するために地域 SNS が徐々に発達してきたことを概観する 2 つの章から成っている。第 2 部は具体的なケーススタディを論じた 3 つの章と結章から成っている。

地域 SNS とは、従来のオンライン・コミュニティとは異なり、オンラインとオフラインを組み合わせることによって地域の諸課題を解決することに特化した地域型の SNS システムである。

第 1 章は、研究の目的と方法、用語の定義、ケーススタディの対象地区の概要、論文の構成を述べている。研究の目的として、地域 SNS は高層ニュータウンにおける参加型まちづくりを推進する手段として有効であることを示し、同時に地域 SNS の活用方法と限界とを具体的に明らかにすることである。

第 2 章は、第 1 部の始まりとして、今日の高層ニュータウン住宅において、参加型のまちづくりが困難である状況を明らかにし、地域 SNS を活用することによってその困難さを克服することが可能であることを示している。特に人口の 60% を高層ニュータウン住宅が占める韓国においては、この問題が物理的空間においても参加の具体的な仕組みの面においても、顕著に表れていることを、既往研究をもとに明らかにしている。

第 3 章では、韓国における地域 SNS の発展プロセスを 5 つの時期に分けて論じている。韓国における地域 SNS は、住宅バブルが崩壊した後の 1998 年、住宅価格の値崩れを防ぐためにオンラインによる情報共有を始めたのを契機として発生し、次第にディベロッパ主導から住民主導へと運営形態を変化させ、さらに扱うテーマも多様化することによって、今日まで盛衰を経て、発展してきたことを明らかにしている。また、韓国の地域 SNS は平均のメンバー数が 15,300 人と大規模であり、オンライン上での弱いパートナーシップに特徴があることを明らかにしている。

第4章は、第2部の出発点として、ケーススタディ地区の選定プロセスを明らかにしている。対象としたのはソウル大都市圏の郊外部である京畿道で、当該地区におけるすべての地域 SNS を概観し、市全域を対象としたまちづくり型地域 SNS のうち現在も活動を継続させているところを対象を絞り、そのなかで、古くなった大規模開発型ニュータウンの問題を扱う地域 SNS とオールドタウンの部分的な更新を扱う地域 SNS とを対象地区として絞り込む過程を明らかにしている。

第5章は、古くなった大規模開発型ニュータウンの問題を扱う地域 SNS として、人口流動性の高い Gunpo 市の Sanbon-love をとりあげ、その詳細な歴史と具体的な活動成果を明らかにしている。Sanbon-love は硬直化した大規模ニュータウンのマスタープランが変化するニーズを反映できなくなってきたことを契機に設立され、小規模な環境改善を7箇所を実現してきた。地元住民にとって永らく課題とされていた駐車場の改善などを地域 SNS が大多数の声をとりまとめることができたことによって改善が実現したことを実証的に示している。

第6章は、準農林地域の緩い土地利用規制が問題を引き起こしていた Namyangju 市の地域 SNS である Dukso-sarang をとりあげ、土地利用の規制強化や歩道環境の改善など多くの実績を上げていることを示している。

結論を述べる第7章では、韓国において地域 SNS が具体的な個別スポットの環境改善に有効であることを示し、同時に、従来型のオンライン・コミュニティでは参加者が若年層に偏りがちであったのに対して、地域 SNS では市民の2割以上がメンバーであるうえに、より均衡のとれた代表性を有していることを明らかにしている。また、韓国の成功した地域 SNS は個人名を明らかにしないことによってメンバー間のつながりを意図的に緩やかなものにしていく点を明らかにしている。

一般に、地域 SNS においては、専門家の参加を容易にし、議論に参加しない見物メンバーもある特定のテーマに関して、突然積極的な参加者に変化するダイナミックな可能性を有している点を明らかにしている。これらの点において地域 SNS を参加型都市計画の新しい可能性を拓くものとして結論づけている。

以上、本論文は、従来明らかにされてこなかった地域 SNS の都市計画ツールとしての可能性を実証的に明らかにした論文として、今後の市民参加型の都市計画のあり方に大きな可能性を提示することに成功しており、優れた論文として高く評価することができる。

よって本論文は博士（工学）の学位申請論文として合格と認められる。